

Ⅲ シラバス

2021年度以前入学生

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
疫学	講義	3	前		2	濱岡 直裕、小林 宣道	32
保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	3	後	1		○川口 桂嗣、○安藤 陽子、○武澤 千尋、○作並 亜紀子、○榎本 浩司、○近藤 明代	34
保健統計学Ⅰ	演習	3	後	1		志渡 晃一、米田 龍大	36
成人看護活動論Ⅲ	講義	3	前	1		○藤井 瑞恵、○加藤 剛寿、○伊藤 円、○小野 善昭、○池野 航平、○今泉 里絵	38
成人看護実習Ⅰ	実習	3	通年	3		○小野 善昭、○加藤 剛寿、○伊藤 円、○池野 航平、○今泉 里絵、○藤井 瑞恵	40
成人看護実習Ⅱ	実習	3	通年	3		○藤井 瑞恵、○伊藤 円、○加藤 剛寿、○池野 航平、○今泉 里絵、○小野 善昭	41
高齢者看護活動論Ⅱ	講義	3	前	1		○中田 真依、○中武 延	42
高齢者看護実習	実習	3	通年	4		○服部 ユカリ、○中田 真依、○中武 延	44
小児看護活動論Ⅱ	講義	3	前	1		○河崎 和子、○佐々木 めぐみ	45
小児看護実習	実習	3	通年	2		○河崎 和子、○佐々木 めぐみ	47
母性看護活動論Ⅱ	講義	3	前	1		○齋藤 早香枝、○澤田 優美、○野崎 由希子	48
母性看護実習	実習	3	通年	2		○齋藤 早香枝、○澤田 優美、○野崎 由希子	50
精神看護学概論	講義	3	前	2		吉野 淳一、○原田 由香、佐々木 晶子	51
精神看護活動論Ⅰ	演習	3	後	1		○原田 由香、○高橋 正樹	53
在宅看護論Ⅰ	講義	3	後	2		○安藤 陽子、増田 陽介	55
在宅看護論Ⅱ	演習	3	後	1		○作並 亜紀子、○安藤 陽子、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣、増田 陽介、室田 ちひろ、木浪 江衣子、武田 祐貴	57
医療安全論	講義	3	前	2		○吉田 祐子、福岡 啓子、葛西 陽子	59
看護学研究法	講義	3	通年	2		○吉田 祐子、○木津 由美子、末光 厚夫	62
看護管理論	講義	3	後		1	○吉田 祐子、浪岡 まさみ	64
公衆衛生看護学概論	講義	3	前		1	○近藤 明代	66
公衆衛生看護活動論Ⅰ	講義	3	後		2	○武澤 千尋、○川口 桂嗣、○近藤 明代	67
公衆衛生看護活動論Ⅱ	演習	3	後		2	○小川 克子、○武澤 千尋、○川口 桂嗣、○近藤 明代、○作並 亜紀子、渡辺 千鶴	69
公衆衛生看護管理論	講義	3	後		1	○近藤 明代、○安藤 陽子	72
英語Ⅳ(総合)	演習	4	後		1	松尾 文子	73
文学と人間	講義	4	後		1	畠山 瑞樹	75
国際社会論	講義	4	後		1	翁 康健	77
保健医療福祉行政論Ⅱ	講義	4	前		2	○武澤 千尋、○小川 克子、安藤 陽子、○川口 桂嗣、○近藤 明代	79
保健統計学Ⅱ	演習	4	前		1	志渡 晃一、米田 龍大	81
精神看護活動論Ⅱ	講義	4	前	1		○原田 由香、○高橋 正樹	83
精神看護実習	実習	4	前	2		○原田 由香、○高橋 正樹	84
看護課題研究	演習	4	通年	2		○木津 由美子、○吉田 祐子 他	85
リハビリテーション看護論	講義	4	前		2	○小野 善昭、佐藤 由佳子、村井 昌子	87
がん看護論	講義	4	前		2	小島 悦子、大串 祐美子、菊地 美香	89
クリティカル看護論	講義	4	前		2	○小野 善昭、春名 純平、村中 沙織	91
慢性看護論	講義	4	前		2	○藤井 瑞恵、○加藤 剛寿、渡辺 美和、若林 マリア	93
終末期看護論	講義	4	前		1	○伊藤 円、小島 悦子、青田 美徳、梶原 陽子	95
国際看護論	講義	4	後		1	正岡 経子、石川 祐美 近藤 美智子、小池 真理子、北間 砂織、鈴木 幹子	97
看護教育論	講義	4	後		1	○大日向 輝美	99
在宅看護実習	実習	4	前	2		○安藤 陽子、○作並 亜紀子、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	101
看護総合実習	実習	4	前	2		○木津 由美子、○吉田 祐子、他	102
実践総合演習	演習	4	後	1		○木津 由美子、○吉田 祐子、他全看護教員	103
公衆衛生看護活動論Ⅲ	講義	4	前		1	○小川 克子、○武澤 千尋、○川口 桂嗣、○近藤 明代	105
公衆衛生看護実習Ⅰ	実習	4	後		2	○近藤 明代、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	107
公衆衛生看護実習Ⅱ	実習	4	後		2	○近藤 明代、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	108
公衆衛生看護実習Ⅲ	実習	4	後		1	○近藤 明代、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	109

(注) 1. 各科目の責任者は科目担当者の先頭記載者

2. ○印は学科所属の専任教員で医師、看護師、保健師を経験している実務経験者

授業科目	疫学 Epidemiology	担当教員	濱岡 直裕、小林 宣道
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	疫学は、人間集団における疾病および健康現象の発生状況を把握し、それらに影響を及ぼしている要因や条件を総合的に探る学問である。この基本的考え方や方法を理解し、健康問題について論理的な思考で原因を追究する手法を身につけ、疫学の考え方が保健対策や公衆衛生看護活動の基礎となっていることを理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学概念・考え方、および疫学における各種の指標について理解する。 2. 疫学の研究方法について、特徴と意義、および各方法の差異を理解する。 3. スクリーニングについて、特性と意義を理解する。 4. 保健対策・公衆衛生看護活動において疫学の考え方が実践されていることを理解する。 		
関連科目	公衆衛生看護学の各科目に関連する。		
テキスト	大木秀一著「基本からわかる看護疫学入門（第3版）」（医歯薬出版）		
参考書	適宜紹介する		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 試験、小テスト、授業中の取り組み姿勢（授業への集中度、積極性、参加状況、授業中の受講態度）などにより目標の到達状況进行评估する。 小テストは3回実施する（小林：1回・評価割合10%、濱岡：2回・評価割合20%）。 最終試験は最終回終了翌週に実施する。
	試験	60	
	レポート		
	小テスト	30	
	提出物		
その他	10		
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に集中し、復習により知識を身につけ、問題演習を通じて知識をアウトプットする能力を養うこと。 ・ 配付資料のみでなく、テキストを3回読み込んで、体系的に復習を行うこと。 		
課題に対するフィードバックの方法	小テストの出題内容は講義中に解説する。		
実務経験を活かした教育内容			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (濱岡)	疫学の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疫学概念を理解する。 ・ 疫学における「因果関係」とは何かを理解する。 	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。
2 (小林)	疫学で用いられる指標 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 比、率、割合。有病率と罹患率と累積罹患割合。 	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。
3 (小林)	疫学で用いられる指標 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 相対危険と寄与危険。 	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。
4 (小林)	疫学で用いられる指標 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 死亡率、年齢調整死亡率、致命率。 	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。
5 (小林)	疫学指標について小まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小まとめ ・ 問題演習 	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。
6 (小林)	確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト1 ・ 解答解説を通じて理解を深める。 	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。
7 (濱岡)	記述疫学、分析疫学 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記述疫学の目的と特色を理解する。 ・ 生態学的研究、横断研究の目的と特色を理解する。 	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各1時間程度）。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 (濱岡)	分析疫学(2)、介入研究	・コホート研究、症例対照研究の目的と特色を理解する。 ・介入研究の目的と特色を理解する。	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
9 (濱岡)	真実と誤差、バイアス、交絡	・調査研究の結果に含まれる真実と誤差について理解する。 ・バイアス、交絡因子、信頼性と妥当性について理解する。	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
10 (濱岡)	疫学調査とEBM・EBN	・疫学調査とEBM・EBNについて理解する。 ・問題演習	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
11 (濱岡)	疫学研究方法について 小まとめ・確認テスト	・小テスト2 ・解答解説を通じて理解を深める。	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
12 (濱岡)	スクリーニングの概要	・スクリーニングの意義・方法を理解する。 ・スクリーニングの実施上の原則、感度と特異度を理解する。	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
13 (濱岡)	スクリーニングの実際	・スクリーニングの実際を理解する。 ・問題演習	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
14 (濱岡)	スクリーニングについて 小まとめ・確認テスト	・小テスト3 ・解答解説を通じて理解を深める。	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。
15 (濱岡)	総まとめ	・実際の疫学研究例から、疫学研究の意義を理解する。 ・関連する国家試験問題解説	事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。

授業科目	保健医療福祉行政論 I Health & Welfare Administration	担当教員	川口 桂嗣、安藤 陽子、武澤 千尋、 作並 亜紀子、槌本 浩司、近藤 明代
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	保健医療業務は人間の生命や健康に直接関係するため、業務従事者の資格や業務内容及び国民への業務の提供システムについては、多くの法規によって規制されている。さらに、関係する保健医療従事者との連携・協働も法規で求められている。したがって、保健医療行政の役割や仕組み及び関係法規の体系や内容を理解することは、看護職が自己の役割や責任を果たす上で欠かすことのできないことであることを学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療活動における行政の役割と仕組み及び行政の基盤である関係法規の体系を説明できる。 2. 医事と薬事に関する主要な法規の内容を説明できる。 3. 保健衛生と予防衛生に関する主要な法規の内容を説明できる。 4. 学校保健と労働衛生（産業保健）に関する主要な法規の内容を説明できる。 		
関連科目	2年次後期に履修した社会福祉論と密接に関連します。また4年次前期の選択科目、保健医療福祉行政論IIの関連科目です。		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 森山幹夫「系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令（第54版）」（医学書院） 2. 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる2022-2023」（メディックメディア） 3. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2023/2024」（厚生労働統計協会） 		
参考書	1. その他、必要に応じプリント配付します。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 ・定期試験：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価します（川口12点分、安藤26点分、武澤26点分、作並12点分、槌本12点分、近藤12点分）。
	試験	100	
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健医療福祉行政」のうちの「福祉分野の行政と法規」については、2年次の「社会福祉論」の復習に努め、「保健医療分野」と「福祉分野」を関連させながら学習してください。 ・講義は教科書、配布プリントをもとに進めます。該当部分に目を通して授業に臨んでください。 ・各医療従事者の資格法については、共通の事項である「医療従事者の資格・業務に関する基本的な考え方」として講義し他の部分は省略しますが、医師法、歯科医師法、保助看法については更に特殊の事項についてだけ触れます。 		
課題に対するフィードバックの方法	授業中に到達目標の達成状況について理解度を確認し、講義終了後に全体へのフィードバックを行います。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域保健活動体験を講義に織り交ぜながら、衛生法規を学ぶ重要性を理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (安藤)	衛生法規の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法規の概要 1) 法の概念 2) 法の種類 3) 他の面からみた法の種類 4) 法規の効力の優劣 5) その他の法規に関する事項 2. 衛生法規の概念 3. 衛生法規の分類 	<p>事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。</p> <p>事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。</p>
2 (武澤)	看護法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健師助産師看護師法 2. 看護師等の人材確保の促進に関する法律 	<p>事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。</p> <p>事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。</p>
3 (安藤)	医事法・薬事法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療法 2. 医療従事者の資格・業務に関する基本的な考え方 3. 医師法・歯科医師法 4. 医薬品医療機器等法 5. 麻薬及び向精神薬取締法 	<p>事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。</p> <p>事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）</p>
4 (槌本)	保健衛生法規	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域保健法 2. 健康増進法 3. がん対策基本法 	<p>事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。</p> <p>事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。</p>
5 (川口)	保健衛生法規	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者医療確保法 2. 精神保健福祉法 	<p>事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。</p> <p>事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。</p>

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (近藤)	保健衛生法規	1. 母子保健法 2. 母体保護法	事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。
7 (作並)	予防衛生法規	1. 感染症法 2. 予防接種法	事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。
8 (武澤)	学校保健法規と労働衛生（産業保健）法規	1. 学校保健安全法 2. 労働安全衛生法	事前：テキスト、配付プリントで予習（1時間）する。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2時間）。

授業科目	保健統計学Ⅰ Health Statistics		担当教員	志渡 晃一、米田 龍大
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位	
授業目的	人口統計と保健・医療統計について学習し、人口構造や動向と社会・医療とのつながりを理解する。			
到達目標	保健・医療・福祉にかかわる統計調査の基礎を学び、健康や疾病の関する統計を取る意味を理解する。			
関連科目	保健統計学Ⅱ			
テキスト	1. 大木秀一「基本からわかる看護統計学入門 第2版」(医歯薬出版株式会社) 2. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2023/2024 年度版」			
参考書	1. 鈴木庄亮「シンプル衛生公衆衛生学 2024」(南江堂)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点	
	試験	100	目標の到達状況を定期試験により評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
その他				
履修上の留意事項	・ 授業に集中し、復習により知識を身につけること。 ・ 配付資料のみでなく、テキストを3回読み込んで、体系的に復習を行うこと。			
課題に対するフィードバックの方法				
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、調査研究事例などを講義に織り交ぜ、統計資料の読み方や調査手法、各種指標について理解しやすいように授業を行う。			
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習	
1 (志渡)	ガイダンス	講義目的、内容の概説	テキストの目次を読み、事前に科目の全体像を把握しておく(1.5時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
2 (米田)	統計調査概論	統計調査の意義と役割、保健統計の種類	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
3 (米田)	人口統計①	人口静態統計	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
4 (米田)	人口統計②	人口動態統計	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
5 (志渡)	人口統計③	生命表、平均寿命、平均余命、健康寿命、年齢調整死亡率、SMR	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
6 (志渡)	社会調査概論①	国民生活基礎調査	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
7 (志渡)	社会調査概論②	国民健康・栄養調査	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
8 (志渡)	保健統計概論①	我が国の保健統計	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	
9 (志渡)	保健統計各論①	患者調査、国際疾病分類、精神保健関連統計	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10 (米田)	保健統計各論③	感染症発生動向調査	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
11 (米田)	保健統計各論④	学校保健統計	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
12 (米田)	保健統計各論⑤	母子保健統計	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
13 (志渡)	医療体制の動向	医療保険制度、公費医療、国民医療費	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
14 (志渡)	保健統計各論③	感染症発生動向調査	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
15 (志渡)	まとめ		

授業科目	成人看護活動論Ⅲ Adult Nursing III	担当教員	藤井 瑞恵、加藤 剛寿、伊藤 円、小野 善昭、池野 航平、今泉 里絵
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	成人期にある対象の紙上事例をもとに、看護過程の一連の流れを理解し展開する。また、この科目の学びを成人看護実習Ⅰ・Ⅱで活用できるようになることを目指し、患者・家族の対象理解を深めるための思考過程を整え、看護問題を解決するための看護実践能力の基盤を培う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護実習に必要な基盤となる知識・技術・態度を身につけることができる。 2. 意図的な情報収集を行うことができ、得られた情報を整理し対象理解ができる。 3. 得られた情報を調べた内容と複合的に関連させ、他者に伝えるアセスメントが記述できる。 4. 情報と情報を結び付けて描画し、対象を全体的に捉えることができる。 5. 対象に合った個性のある具体的な看護計画を立案することができる。 		
関連科目	成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護実習Ⅰ、成人看護実習Ⅱが主な関連科目である。		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 野崎真奈美他編「成人看護学 成人看護技術」(南江堂) 2. 矢永勝彦他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」(医学書院) 3. 北島政樹他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」(医学書院) 		
参考書	科目の中で適宜紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標に沿って、提出物で総合的に評価する。提出物は期限、提出方法を遵守する。提出期限に遅れたものは評価の対象としない。提出物の配点は、アセスメント40%、関連図20%、看護計画20%、シミュレーション20%。詳細はガイダンス時に説明する。
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100%	
その他			
履修上の留意事項	成人看護実習ⅠおよびⅡの先修要件に関わる科目です。この科目は、成人看護学の視点で紙上事例のアセスメントに取り組み、看護過程についての理解を深めるとともに、実習前の準備状況を整えるための内容になっています。看護過程に対する理解を深められるように、それぞれが主体的に取り組み、学習してください。また、シミュレーション演習では臨床場面を想定して行いますので、基礎的な看護実践能力を修得できるよう練習と振り返りを行ってください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに1～3時間の時間を要します。		
課題に対するフィードバックの方法	授業初回開始前の事前課題にはコメントを付して返却する。また、授業開始時に前回提出済みの課題における各教員のコメントを集約し全体に向けたフィードバックの実施や、各グループワーク時に各教員がグループ全体に向け助言を行う。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを演習に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (加藤) (全担当教員)	成人期にある患者・家族の看護過程の展開：アセスメント①	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (科目の目的、方法、評価、成人看護実習との関連) 2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法 3. アセスメント 	<p>事前学習：事例の看護過程が展開できるよう病態ならびに治療を予習する。</p> <p>事後学習：アセスメントの見直し、修正</p>
2 (加藤) (全担当教員)	看護過程の展開：アセスメント②	<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントの振り返り 2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法 3. 関連図の書き方 	<p>事前学習：アセスメントを修正し、他者に説明できるようにしておく。</p> <p>事後学習：アセスメントの修正、関連図の作成</p>
3 (加藤) (全担当教員)	看護過程の展開：アセスメントのまとめ③、関連図①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体像の共有、他者への説明 2. 関連図の描画の視点 	<p>事前学習：前回までのアセスメントを見直し、他者に説明できるようにしておく。また、関連図を作成しておく。</p> <p>事後学習：アセスメントの提出に向けて見直し、修正</p>
4 (加藤) (全担当教員)	看護過程の展開：関連図②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体像の共有、他者への説明 2. 看護問題の明確化 	<p>事前学習：関連図を修正しておく。</p> <p>事後学習：関連図の提出に向けて見直し、修正</p>

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：看護計画の立案①	1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 全体像、目標、期待される結果と看護の関連を共有、他者への説明	事前学習：具体的な看護に結びつくよう参考書を選定、持参する。 事後学習：看護計画の見直し、修正
6 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：看護計画の立案②	1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 次回シミュレーションのガイダンス	事前学習：看護計画を振り返り、修正しておく 事後学習：看護計画の提出に向けて見直し、修正
7 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：シミュレーション	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※7回、8回は2コマ連続で行う。(2クラス展開)	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入、提出
8 (伊藤) (全担当 教員)	看護過程の展開：シミュレーション	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※7回、8回は2コマ連続で行う。(2クラス展開)	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入、提出

授業科目	成人看護実習Ⅰ Adult Nursing : Practicum I	担当教員	小野 善昭、加藤 剛寿、伊藤 円、池野 航平、今泉 里絵、藤井 瑞恵
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	3単位
ねらい	急性期にある患者・家族を多側面からアセスメントし、患者・家族の健康段階に応じた知識・技術・態度を養う。特に、身体侵襲が患者に及ぼす影響について理解を深めるとともに、心身の侵襲を最小限にし、回復のための看護過程を展開する。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を理解できる。 2. 急性期（急性疾患、周手術期、慢性疾患の急性増悪等）における患者の健康上の課題をとらえ、看護過程を展開することができる。 3. 患者・家族を生活者の視点でとらえ、回復促進のための援助ができる。 4. 保健医療チームの一員として看護職の役割を理解するとともに、その責任を果たすことができる。 5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。 6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。 		
関連科目	成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護活動論Ⅲ、成人看護実習Ⅱが主な関連科目である。更に関連する科目は、専門基礎科目の「個人と健康」、専門科目の「看護の基本」「看護の統合と探求」全ての科目も関連する。		
実習内容	急性期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 詳細は実習要項を参照のこと。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	100	実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。 評価基準は別紙ルーブリック表を使用する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってください。また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われるものもあります。いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。		
課題に対するフィードバックの方法	実習記録へのコメントや個別指導を行い、日々の学習内容に対するフィードバックを行います。また、実習中間時点で形成評価のために面談を実施し、目標の達成状況や課題についてルーブリック表を用いながら助言します。		
実務経験を活かした教育内容	急性期領域での勤務経験や実習指導の経験をふまえて、急性期にある対象の看護過程について個々の学生が理解しやすいように指導を行います。		
実習方法	詳細は実習要項を参照のこと。		
実習施設	札幌東徳洲会病院、札幌徳洲会病院、札幌医科大学附属病院、手稲溪仁会病院		

授業科目	成人看護実習Ⅱ Adult Nursing : PracticumⅡ	担当教員	藤井 瑞恵、伊藤 円、加藤 剛寿、池野 航平、今泉 里絵、小野 善昭
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	3単位
ねらい	成人期にある患者・家族が、疾患を抱えながら生活することの意味を捉え、疾患そのものや治療が与える、心身ならびに生活の営みへの影響を理解するとともに、そのセルフケアを支えるための基礎的な看護実践力を修得する。また、継続的な療養生活に向けた社会資源の活用、地域の保健医療福祉チームとの連携、看護の役割を学ぶ。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を統合的に理解できる。 2. 慢性的に経過する疾患を抱える患者・家族の看護上の問題を明らかにし、看護過程を展開できる。 3. 看護実践における人間関係形成の重要性を認識し、相互に成長することの意味を深め、援助的人間関係を形成できる。 4. 保健医療チームの一員として看護職の役割を理解するとともに、その責任を果たすことができる。 5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。 6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。 		
関連科目	成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護活動論Ⅲ、成人看護実習Ⅰが主な関連科目となります。更に、専門基礎科目の「個人と健康」、専門科目の「看護の基本」「看護の統合と探求」の全ての科目とも関連します。		
実習内容	原則として、慢性期・回復期にある患者を受け持ち、看護過程を展開します。詳細は、実習要項を参照して下さい。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	実習要項に記載	100	実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。評価基準は別紙ルーブリック表を使用する。
履修上の留意事項	これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってください。また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われるものもあります。いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。		
課題に対するフィードバックの方法	実習記録へのコメントや個別指導を行い、日々の学習内容に対するフィードバックを行います。また、実習の中間時点で形成評価のために面談を実施し、目標の達成状況や課題についてルーブリック表を用いながら助言します。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、成人期にある対象の看護について理解しやすいように実習指導を行います。		
実習方法	詳細は、実習要項を参照して下さい。		
実習施設	北海道がんセンター、札幌溪仁会リハビリテーション病院、北光記念病院、石橋胃腸病院		

授業科目	高齢者看護活動論 II Gerontological Nursing II	担当教員	中田 真依、中武 延
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	本科目では、紙上事例を用いて老年期にある対象への看護過程を展開し、病院実習に向けた看護実践能力を養う。また、介護老人保健施設での看護の実際や保健医療福祉チームの連携の在り方について理解し、介護老人保健施設実習に向けた基礎的能力を養う。これらの学修を通して臨地実習で活用できることを目指す。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 紙上事例をもとに老年期にある対象への看護過程を展開できる。 <ol style="list-style-type: none"> 事例の健康状態を捉え生活機能の視点でアセスメントできる。 アセスメントを統合し、関連図の作成を経て全体像と看護問題、援助の方向性を明確化できる。 対象の強みを活かし、個別性に応じた看護目標や看護計画を立案できる。 個別指導やグループワークを通して自らの看護過程を振り返り、修正できる。 介護老人保健施設の役割と機能および看護の実際と保健医療福祉チームの在り方について説明できる。 		
関連科目	高齢者看護学概論、高齢者看護活動論Ⅰ、高齢者看護実習		
テキスト	1. 北川公子編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」(医学書院)		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 山田律子編「生活機能からみた老年看護過程」(医学書院) 江川隆子「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」(ヌーベルヒロカワ) 正木治恵「パーフェクト臨床実習ガイドーライフステージに沿った看護技術と看護の展開ー老年看護実習ガイド」(照林社) 大川弥生著「生活機能とは何か -ICF：国際生活機能分類の理解と活用 -」(東京大学出版会) 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		目標の到達状況を、事前課題および看護過程課題、小テストから総合的に評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 事前(春休み)課題：10点 看護過程課題：75点 <ul style="list-style-type: none"> 課題①：アセスメント 30点、関連図・全体像と看護問題および援助の方向性 20点、看護計画 10点 課題②：課題①の修正・改善度 15点 小テスト(介護老人保健施設に関する内容)：15点
	レポート		
	小テスト	15	
	提出物	85	
その他			
履修上の留意事項	高齢者看護学概論、高齢者看護活動論Ⅰを復習し、必要な準備を整えて臨むこと(個人パソコン、電子媒体、関連資料等)。提出物が遅れた場合は原則評価に影響する。		
課題に対するフィードバックの方法	すべての課題はコメントを記し、返却します。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における事例などを織り交ぜ、高齢者看護について理解しやすいよう講義・演習を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (中田)	ガイダンス	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス：紙上事例を用いた看護過程演習 アセスメントガイドの説明 【課題提示】 看護過程の展開	事前学習：シラバスを読む、高齢者看護活動論Ⅰの復習(2時間) 事後学習：演習の準備、課題①の作成(2時間以上)
2 (中田)	講義：老年期にある対象の看護過程①	<ol style="list-style-type: none"> 老年期にある対象の看護過程 アセスメント 	事前学習：講義の予習(2時間) 事後学習：課題①の作成(2時間以上)
3 (中田)	講義：老年期にある対象の看護過程②	<ol style="list-style-type: none"> 関連図、全体像と援助の方向性 看護目標、看護計画 	事前学習：講義の予習(2時間) 事後学習：課題①の作成(2時間以上)
4 (中田)	講義：老年期にある対象の看護過程③	<ol style="list-style-type: none"> 看護経過記録(SOAP) 看護計画の評価 	事前学習：講義の予習(2時間) 事後学習：課題①の作成(2時間以上)
5 (中田)	講義：介護老人保健施設の実際	GS：介護保険施設に勤務する老人看護専門看護師 <ol style="list-style-type: none"> 介護老人保健施設の看護の役割とIPW 	事前学習：講義、高齢者看護学概論の復習(2時間) 事後学習：講義の復習(2時間以上)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (中田)	講義：老年期にある対象の 看護過程④	1. 課題①の返却 2. 全体フィードバック	事前学習：講義の予習（2時間） 事後学習：課題②の作成（2時間以上）
7 (中田 他)	演習：グループワーク	1. 作成した看護過程の共有 グループは2事例の混合グループで構成し、各自が工夫 した点や悩んだ点などを含め、学びを共有する	事前学習：グループワーク準備（1～2 時間） 事後学習：グループワークの復習、課 題②の作成（2時間以上）
8 (中田)	小テスト 講義：老年期にある対象の 看護過程⑤	1. 小テスト（15分） 2. 課題②の返却 3. 全体フィードバック、高齢者看護活動論Ⅱの総括	事前学習：課題①②の復習 事後学習：全体の復習（2時間以上）

授業科目	高齢者看護実習 Gerontological Nursing Practicum	担当教員	服部 ユカリ、中田 真依、中武 延
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	4単位
ねらい	<p>本科目では、健康課題をもつ老年期にある対象への看護実践能力を、看護実践の展開、対人関係の形成、社会資源の活用とチーム連携、倫理的行動と問題認識の4つの課題のもとに修得する。病院実習と介護老人保健施設実習を通して、老年期にある対象を全人的に理解し、対象や家族が望む目標を志向しながら、健康課題や生活機能に応じた看護をエンドオブライフ・ケアの視点で実践する基礎的知識・技術・態度を養う。</p> <p>また、老年期にある対象を取り巻く環境や家族関係を踏まえ、保健医療福祉チームにおける専門職連携の在り方を理解し、看護師の役割を果たすための能力を養う。さらに、実習の過程を通して、看護専門職を志す学生として主体的に学習し、倫理的側面からの学びを経て高齢者看護学の実践に繋がる感性を養う。</p> <p>病院実習では、老年期にある対象への看護を展開し、高齢者への看護実践能力を修得する。介護老人保健施設実習では、施設の機能や役割を理解し、施設内で生活する高齢者への看護の実践を学ぶ。</p> <p>また、病院実習、介護老人保健施設実習を通して高齢者を取り巻く環境や家族関係等をふまえ、社会資源の活用、保健医療福祉チームの連携の実際と看護師の役割、高齢者の倫理的課題を学ぶ。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象を身体的・心理的・社会的・発達の側面、および価値・信念を捉え全人的に理解し、対象や家族が望む援助の方向性について余生を踏まえて説明できる。 2. 老年期にある対象に必要な看護計画を立案し、目標を志向した看護援助を実施・評価できる。 3. 介護老人保健施設の役割と機能を理解し、参加観察や利用者との交流から看護の在り方や利用者を支える専門職の役割・連携について説明できる。 4. 看護学生として責任を自覚し、老年期にある対象の倫理的課題を思考できる。 		
関連科目	高齢者看護学概論Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護活動論Ⅰ・Ⅱ		
実習内容	病院実習3週間(3単位)と、介護老人保健施設1週間(1単位)の合計4週間(4単位)の実習である。本実習内容の詳細は、実習要項に沿ってガイダンス時に説明する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点 実習目標の到達度を評価基準に基づき評価する。 ※実習要項参照
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100	
その他			
履修上の留意事項	高齢者看護学の講義内容を復習し、講義資料や作成した課題(脳卒中、認知症、事前課題)、高齢者看護活動論Ⅱで使用した記録見本やアセスメントガイドを準備して実習に臨むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	実習期間中には記録に対する個別フィードバックを行い、評価確定後に実習ファイルを返却する。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、老年期にある対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。		
実習方法	実習方法の詳細は実習要項を参照すること。主な内容として、病院実習では老年期にある対象を受け持ち、看護過程を展開する。介護老人保健施設実習では特定の高齢者を受け持たず、施設に入所もしくは通所している様々な高齢者と関わり学びを得る。		
実習施設	病院：愛全病院、イムス札幌内科リハビリテーション病院、札幌白石記念病院、札幌西円山病院、東苗穂病院、北海道脳神経内科病院 介護老人保健施設：あつべつ、グラ―ネ北の沢、コミュニティホーム白石、デイ・グリュ―ネン、ひまわり、もえれパークサイド		

授業科目	小児看護活動論Ⅱ Pediatric Nursing Ⅱ	担当教員	河崎 和子、佐々木 めぐみ
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	本科目では、既習の概論、活動論Ⅰの学習内容を臨地実習で活用できることを目的とし、小児と家族の看護をしていくうえで必要な知識・技術・態度を学ぶ。また、健康な小児との関わりの実際を理解し、子どもの各期の成長発達段階に対応した生活支援のあり方を学ぶ。看護過程演習については、小児看護活動論Ⅰで展開した紙上事例を用いて、立案した看護計画を模擬実践し、実施、評価について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長発達の特徴を理解し成長発達段階に対応した生活支援について理解する。 2. 紙上事例の小児と家族の健康状態を既習のツールを用いてアセスメントできる。 3. 2をもとに小児と家族の全体像を把握し、看護問題を明確化できる。 4. 3で明らかになった看護問題を解決するため具体的かつ科学的根拠に基づいた看護計画を立案できる。 5. 4の看護計画立案では安全・安楽性、成長・発達を考慮した教育・指導あるいはプレパレーション内容を模擬実践できる。 6. 看護問題が解決、改善されたかを判断する看護評価の視点が考えられる。 7. 小児看護に必要な看護技術について模擬人形を用いて実践できる。 8. 救急外来や集中治療室など状況別にみる子どもと家族の看護について説明できる 		
関連科目	小児看護学概論、小児看護活動論Ⅰ		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学概論改訂第4版」(南江堂) 2. 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護技術改訂第4版」(南江堂) 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 石黒彩子編「発達段階からみた小児看護過程」(医学書院) 2. 新看護観察のキーポイントシリーズ「小児Ⅰ」(中央法規) 3. 医療情報科学研究所「病気がみえる小児科」(メディックメディア) 4. 山本恵子監修「写真でわかる小児看護技術 改訂2版」(インターメディアカ) 5. 山口桂子他「エビデンスに基づく小児看護ケア関連図」(中央法規) 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		目標への到達状況を①②③により総合的に評価する。
	レポート	10	①レポートは、保育園園長の講義より「健康な子どもの成長発達と支援」についてレポートする(10点)。
	小テスト	20	②提出物は、グループでの看護過程および個別のワークシート提出(70点～看護計画10点、媒体20点、実践20点、評価10点、個別ワークシート10点)、各自の役割遂行内容から総合的に評価する。
	提出物	70	③第8回講義終了時に小テストを行う(20点)。
その他			
履修上の留意事項	本科目は、小児看護実習に臨むうえで総括的な意味をもつ科目であるため、各自、小児看護学概論、小児看護活動論Ⅰを十分に復習して授業に取り組むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	課題提出後、次の講義で全体へフィードバック、または、teamsにてコメントの返却をする。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (河崎)	ガイダンス/入院における子どもの家族の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス 本科目の学習目的・目標および学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項とテキスト・参考図書について説明する。 2) 入院における子どもの家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> ①子どもの入院の特徴 ②入院時の子どもと家族の看護 ③入院中の子どもの看護 	<p>事前学習：小児看護活動論Ⅰで看護展開した事例の記録を見直し、復習しておく(1時間)。</p> <p>事後学習：講義内容を踏まえ、看護計画の見直しをする(1時間)。 ※講義時には「子どもの成長・発達ノート」を持参する。</p>
2 (河崎)	小児における看護過程の展開 (グループワーク①)	<p>グループ編成表参照</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護計画の立案(配点10点) ② 計画実践に必要な媒体の作成(配点20点) 	<p>事前学習：自己の立案した看護計画から必要な媒体について検討してグループワークに臨む(1時間)。</p> <p>事後学習：看護に必要な媒体等の作成・準備(2時間)</p>
3 (河崎)	小児における看護過程の展開 (グループワーク②)	<ol style="list-style-type: none"> ①看護実践に向けた技術演習 ②模擬実践 	<p>事前学習：看護に必要な媒体等の作成および看護技術演習(2時間)</p> <p>事後学習：看護に必要な媒体等の作成および看護技術演習(2時間)</p>

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4・5・6 (河崎・ 佐々木)	小児看護技術の実際 (模擬実践および発表)	1) グループでロールプレイ ①看護計画の発表および実践 (配点 20 点) 立案した看護計画に基づき、作成した媒体を用いながらグループごとに模擬実践を行う。各役割の遂行。 ②実践後、役割ごとに意見交換 ③録画データをもとに、実践の振り返りの実施(グループ討議) 良かった点、改善点について意見交換し、グループごとにシートにまとめる。 2) デブリーフィング ※講義終了後、グループでのシート提出(様式5の記載:実施・評価)(配点10点) 個別ワークシートは翌日までに teams へ提出 (配点10点)	事前学習: 模擬実践のロールプレイに向けて各自自己演習してくる(2時間)。 事後学習: 看護実施の評価を様式5に記載し個別に指定日までに提出する。
7 (吉田・ 河崎)	健康な子どもの生活 の実際	保育園園長より講話 ゲストスピーカー: 吉田久美子園長(やしの木保育園) ①コロナ禍における保育園の現状と園児の生活の実際 ②健康な子どもの成長・発達に合わせたかかわり方 ③健康な子どもの遊びと学習 講義後、レポート課題(配点10点)あり。	事前学習: 図書館所蔵の子どもの発達(幼児期)DVDを視聴する(1時間)。 事後学習: 講義終了後、「健康な子どもの成長発達と生活支援」についてレポートし、指定の期日までに teams に提出する(1時間)。 ※期日時間厳守
8 (河崎)	状況別にみる 子どもと 家族の看護/まとめ	1) 救急外来における子どもと家族の看護 2) 集中治療を受ける子どもと家族の看護 3) 活動制限が必要な子どもと家族の看護 4) 隔離が必要な子どもと家族の看護 ※講義終了時、第1・8回の内容について小テストを行います(20点)。	事前学習: 左記の該当テキストを読んでもらう(30分)。 事後学習: 小テスト後、復習する。自分なりに要点をノートにまとめる(1時間)。

授業科目	小児看護実習 Pediatric Nursing Practicum	担当教員	河崎 和子、佐々木 めぐみ
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	小児期の健康課題・問題をもつ子どもと家族に対する看護実践展開能力、対人関係の形成、社会資源の活用とチームワーク連携、倫理的行動を習得する。対象となる子どもと家族の健康状態を明らかにし、成長発達段階に応じた日常生活支援および健康の回復、維持、増進を図るための看護のあり方について学ぶ。 また、実践を通じて、子どもを主体的な存在として尊重する姿勢を身につけるとともに、小児を取り巻く保健・医療・福祉および教育の連携の重要性を学び、チームにおける看護の役割を理解する。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受けもった子どもと家族（対象者）とのコミュニケーション・観察を通して、健康障害および入院に伴う生活の変化や思いを理解し、看護の視点から優先度の高い看護問題を明らかにできる。 2. 明らかになった優先度の高い看護問題に対して看護計画を立案し、対象者の発達段階を考慮し実践できる。 3. 実践した看護が有効であったかを対象者の反応から評価し計画の修正ができる。 4. 実習生として子どもと家族の安全と人権に配慮し、自覚と責任をもち主体的に取り組むことができる。 5. 子どもと家族への看護を通して、医療チームにおける小児看護の専門性と自分の考えを考察できる。 		
関連科目	小児看護学概論、小児看護活動論Ⅰ・Ⅱ		
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いてオリエンテーション時に説明する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	100%	実習目標到達度を評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。 *評価項目および評価基準は実習要項参照
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	実習病院により対象である小児の健康障害の内容や程度が異なるので、講義・演習の学習内容を復習する他、実習前に提示された事前学習を行い実習に取り組むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	提出された記録は速やかに返却、または口頭でコメントをして、次に活かせるようにします。日々の実習の中での課題については随時、状況に応じてフィードバックしていき、学生自身が改めて考え、自己の力を発揮できるように支援します。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、小児期にある対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習は2週間とする。 2. 実習初日は、学内において小児看護技術を中心に演習内容を復習する。 3. 実習2日目から2週目水曜日まで病院実習を行う。 4. 2週目の木・金曜日は意見交換および記録整理を行い、最終日には記録物一式を提出する。 5. 病院実習初日には、各施設の管理者および病棟管理者、指導者より病院および病棟オリエンテーションを受ける。 6. 対象は健康障害をもつ小児およびその家族である。 7. 対象は急性期、慢性期、回復期、周手術期と多岐にわたり、発達段階は乳児期から思春期にわたる。 8. 病院実習の2週目の後半にカンファレンスを行い、受けもち患児と家族への看護から学生間の学びを共有する。 <p>*実習方法の詳細は実習要項をもとにオリエンテーションを実施するため、必ず出席すること。</p>		
実習施設	JCHO 札幌北辰病院、JCHO 北海道病院、札幌北楡病院、市立札幌病院、手稲溪仁会病院、北海道立子ども総合医療・療育センター、札幌医科大学附属病院		

授業科目	母性看護活動論Ⅱ Maternal and Newborn Care Nursing Ⅱ	担当教員	齋藤 早香枝、澤田 優美、野崎 由希子
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	母子および家族の看護をしていくうえで必要な知識・技術・態度を習得するために、事例を用いて基本的な看護過程の展開を行う。既習の知識を整理・統合しながら、事例の情報をアセスメントし、健康課題に対する看護計画の立案および実施、評価について学習する。統合体としての対象者の全体像を理解し、健康課題を明らかにする過程で、健康の保持・増進への看護についても学ぶ。母性を取り巻く地域の保健医療福祉チームとの連携・協働について理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例の妊娠期・分娩期の経過を踏まえ、ウェルネス的視点で褥婦の健康課題を考えることができる。 2. 褥婦の健康課題を解決するために必要な看護ケアとその根拠を説明できる。 3. 事例の産褥経過についてアセスメントを行い、個別の看護援助を考えることができる。 4. 早期新生児期にある児が胎外生活に適應する変化の過程をアセスメントすることができる。 5. 事例に必要な看護援助技術を修得する。 6. 事例を通じて、地域の保健医療福祉チームとの連携・協働について考えることができる。 7. 産褥期の看護を展開する上で必要な基本的知識を復習することができる。 		
関連科目	母性看護学概論、母性看護活動論Ⅰ、母性看護実習		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論」(医学書院) 2. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論」(医学書院) 		
参考書	講義の中で、随時紹介します。 *母性看護学のアセスメントに必要なツールは講義時に配布します。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		目標への到達状況を小テスト、提出物により総合的に評価する。母性看護の対象者に必要な援助を具体的に考えるための課題を課す。詳細は授業で説明する。小テストでは、妊産褥婦および新生児期の看護を展開する上で必要な基礎的知識を問う。
	レポート		
	小テスト	50	
	提出物	50	
その他			
履修上の留意事項	母性看護活動論Ⅰの学習内容を踏まえて授業は行われます。個人の課題学習をしっかりと行って授業に臨んでください。初回の授業を受ける前に、母性看護活動論Ⅰの事例情報と、看護過程授業資料を読んで臨むこと。また、その資料を必ず持参してください。		
課題に対するフィードバックの方法	小テストは次の授業時に返却します。 提出物はコメントし返却します。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を講義に組み込み、理解しやすい授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (齋藤)	帝王切開術を受ける患者の看護	帝王切開術を受ける患者の看護を理解する。	事前学習：母性看護活動論Ⅰの事例を確認しておく (2時間) 事後学習：課題の実施 (2時間)
2 (全教員)	産褥期の看護過程①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥期の褥婦に対するアセスメントを理解する。 2. 褥婦のもつ健康課題を解決するために必要な看護の要点を理解する。 	事前学習：課題の実施 (2時間) 事後学習：課題の実施 (2時間)
3 (全教員)	産褥期の看護過程②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥期の看護過程の評価について理解する。 	事前学習：課題の実施 (2時間) 事後学習：課題の実施 (2時間)
4 (全教員)	産褥期の看護過程③	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退院後の生活を見通した援助について理解する。 2. 褥婦と新生児の健康課題を解決するために必要な看護看護技術について理解する。 	事前学習：課題の実施 (2時間) 事後学習：課題の実施 (2時間)
5 (全教員)	産褥期の看護過程④	産褥期のマイナートラブルに対する援助を理解する。	事前学習：課題の実施 (2時間) 事後学習：看護技術の予習 (1時間) 課題の実施 (1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (全教員)	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護援助	産褥期の看護技術（授乳時の援助） 新生児期の看護技術（保清・沐浴、全身観察）	事前学習：看護技術について予習しておく（1時間）。 事後学習：自らの看護技術の到達度を評価し、習得のために自己学習を行う（1時間）。
7 (全教員)	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護援助	産褥期の看護技術（授乳時の援助） 新生児期の看護技術（保清・沐浴、全身観察）	事前学習：看護技術について予習しておく（1時間）。 事後学習：自らの看護技術の到達度を評価し、習得のために自己学習を行う（1時間）。
8 (齋藤)	まとめ	1. 産褥期にある対象者へのウェルネスの視点での援助を理解する。 2. 早期新生児期にある児のアセスメントと看護援助を理解する。	事前学習：課題の実施（1時間） 事後学習：課題の修正と提出（3時間）

授業科目	母性看護実習 Maternal Nursing Practicum	担当教員	齋藤 早香枝、澤田 優美、野崎 由希子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	妊娠、分娩、産褥という時期にある女性が健康的に過ごし、次世代を育成するという発達課題を達成していく過程を支援するために必要な看護を学ぶ。また保育園における乳幼児保育に参加し、対象者の発達課題に応じた日常生活の援助と子育て支援についての考えを深める。実践を通じて倫理的配慮に基づいた行動および多職種と協働できる基礎的能力を身につける。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期から産褥期までのいずれかの過程にある対象者に対し、健康課題を捉え、看護援助の実際を体験する。 2. 保育を受ける乳幼児とその家族への援助を学ぶ。 3. 受持ち対象者および家族の価値観や権利を尊重し、誠実な態度で実習することができる。 4. 看護学生として他者と協働するうえで基本となる態度を養う。 5. 次世代を育成する発達課題に対する支援と看護者の役割について、自己の学びを考察できる。 		
関連科目	母性看護学概論、母性看護活動論Ⅰ、母性看護活動論Ⅱ		
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標到達度を評価基準に基づき、実習場での実習内容・態度・実習記録から総合的に評価する。
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他	100		
履修上の 留意事項	母性看護学に関する基礎知識を身につけて実習に臨むこと。		
課題に対するフィードバックの方法	実習中に教員および実習指導員から適宜助言、フィードバックを行います。 実習ファイルは評価確定後返却します。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。		
実習方法	詳細は、実習要項およびオリエンテーション資料を参照のこと。		
実習施設	倶知安厚生病院、札幌医科大学附属病院、市立札幌病院、JCHO 北海道病院、札幌徳洲会病院、勤医協札幌病院、吉田学園くりの木保育園、吉田学園さくら保育園、吉田学園やしの木保育園		

授業科目	精神看護学概論 Introduction to Psychiatric Nursing	担当教員	吉野 淳一、原田 由香、佐々木 晶子
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	精神看護の概念や精神障がい者問題の社会的背景に対する理解を深めるとともに、人の成長発達の過程や社会状況の中で生じる危機およびその対応について学ぶ。現在の精神保健医療福祉および精神看護の動向、歴史的変遷、精神保健福祉法などの精神医療に関する法律、精神看護における倫理的問題と人権保障について学び、精神看護および精神保健の現状と課題について総合的な理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学の考え方について理解できる。 2. 精神保健医療福祉の歴史的変遷と現状について理解することができる。 3. 精神看護学の関連理論およびE.H. エリクソンの発達理論の特徴について理解できる。 4. 各ライフステージにおける精神的健康上の課題について社会的状況と関連付けながら理解することができる。 5. 精神科領域で用いられる看護モデルについて理解することができる。 6. 精神看護領域における人権擁護と倫理について理解できる。 7. 精神を病むということがどのようなことかについて理解を深める。 		
関連科目	精神看護活動論Ⅰ、精神看護活動論Ⅱ、精神看護実習		
テキスト	萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅰ こころの健康と地域包括ケア 改訂第3版」(南江堂) 2022 萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版」(南江堂) 2022		
参考書	* 講義の都度紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	80	試験：定期試験を実施し、学習到達度を評価する (80%) 吉野 20%、原田 50%、佐々木 10%
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20	提出物：講義時間内に授業内容に関するワークシートを1回課す (20%)
その他			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な姿勢で学習に取り組むこと。 ・事前学習はテキストの該当ページに沿った予習を、事後学習は配布資料にて復習すること。 [実務経験を活かした教育内容] ・臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神的健康上の課題について理解しやすいように授業を行います。 		
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。		
実務経験を活かした教育内容	・臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神的健康上の課題について理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (原田)	・ガイダンス：本科目の目的・目標・評価方法について ・こころ (精神) の健康とは	・こころ (精神) の健康とは ・精神看護学の基本的な考え方 ・精神障がいとは	・事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく。 ・該当ページをテキストで予習し (2 時間)、配布資料にて復習する (2 時間)。
2 (吉野)	こころの機能と発達	J. フロイトのいうこころの構造と発達理論、防衛機制	・該当ページをテキストで予習し (2 時間)、配布資料にて復習する。(2 時間)
3 (吉野)	精神科リハビリテーションとリカバリー概念	・対象喪失という概念とストレングスモデル ・リカバリー	・該当ページをテキストで予習し (2 時間)、配布資料にて復習する (2 時間)。
4 (原田)	ライフサイクルと精神保健①	・エリクソンの心理社会的発達理論 ・ライフサイクルから見た精神看護 ・乳幼児期における精神の健康	・該当ページをテキストで予習し (2 時間)、配布資料にて復習する (2 時間)。
5 (原田)	ライフサイクルと精神保健②	・学童期、思春期・青年期における精神の健康	・該当ページをテキストで予習し (2 時間)、配布資料にて復習する (2 時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (原田)	ライフサイクルと精神保健③	・成人期、老年期における精神の健康	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
7 (原田)	精神看護に用いる理論とモデル	・患者 - 看護師関係 ・セルフケア理論 ・プロセスレコードについて	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
8 (原田)	家庭・学校における精神保健	・家族と精神保健 ・学校と精神保健	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
9 (佐々木)	リエゾン精神看護	・リエゾン精神看護とは ・一般病床における精神科的問題と看護 ・看護師のメンタルヘルス	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
10 (原田)	害精神医学	・災害精神医学とは ・ストレスとメンタルヘルス ・災害と関連する主な疾患	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
11 (原田)	精神保健医療福祉の歴史の変遷	・世界における精神医療の歴史の変遷 ・日本における精神医療の歴史の変遷	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
12 (原田)	精神保健医療福祉に関連した法制度とその活用	・精神保健福祉の概要 ・精神保健福祉に関連した法律	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
13 (原田)	人権を守るために - 精神看護における基本的人権と倫理的問題	・人権とは ・医療者が行うべき倫理的配慮 ・精神科医療現場で注意すべきこと ・原則と倫理綱領 ・守秘義務と個人情報の保護 ・患者の権利と人間の尊厳	・該当ページをテキストで予習し(2時間)、配布資料にて復習する(2時間)。
14・15 (原田)	精神を病むということ	映画「A Beautiful Mind」 視聴	・事後学習:ワークシートを整理するとともに、概論での学びについて総復習する(2時間)。

授業科目	精神看護活動論Ⅰ Psychiatric Nursing Ⅰ	担当教員	原田 由香、高橋 正樹
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	精神疾患に関する病態・治療等の基礎的知識ならびに精神疾患のある人とその家族に対する看護について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障がいをもって生きるということについて理解できる。 2. 生物学的モデルとしての脳と精神とのつながり、神経細胞と神経伝達物質について理解できる。 3. 主な精神疾患の病態と診断・治療について理解できる。 4. 精神疾患の代表的な検査と治療法について理解できる。 5. 精神科領域における入院治療と看護の展開について理解できる。 6. 精神障がいをもつ人とその家族に対する看護について理解できる。 7. 地域で暮らす精神障がいをもつ人の生活を支援する方法や制度について理解できる。 		
関連科目	精神看護学概論、精神看護活動論Ⅱ、精神看護実習		
テキスト	萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅰ ころの健康と地域包括ケア 改訂第3版」(南江堂) 2022 萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版」(南江堂) 2022		
参考書	* 随時紹介予定		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 到達目標の達成状況について、下記の内容から評価し、60点以上を合格とする。 試験：定期試験を実施し、学修到達度で評価する(80%) 提出物：講義時間内に授業内容に関するワークシートを3回課す(20%)
	試験	80	
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20	
その他			
履修上の留意事項	講義終了後、配布資料に基づき復習すること。		
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する		
実務経験を活かした教育内容	精神科病棟・病院にて実務経験のある教員が具体例を交えて、理解しやすいように授業をします。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (原田)	ガイダンス、精神を病む人の状態について	<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学の考え方、その対象、役割について ・精神の病む人の現症と精神症状について 	事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)
2 (原田・高橋)	精神障がいをもって生きるとは	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障がいをもつ人の手記からの学びについてグループ内で意見交換することにより、精神を病む人のつらさや周囲の対応について考える。<2教室> 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前：精神障がいをもつ人の手記を読み、学びや気づきについてまとめる(1時間) ・事後：グループワークと報告会を通しての学びについてまとめる(30分)
3 (原田)	脳と精神の繋がり(特別講師：医師)	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と精神機能 ・神経伝達物質と精神機能 	事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)
4 (高橋)	精神科における代表的な検査、身体療法と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科における代表的な検査について ・電気けいれん療法など、身体療法を受ける人の看護について 	事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)
5 (高橋)	薬物療法と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物療法とその副作用について ・薬物療法を受ける人の看護 	事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)
6 (原田)	対象を理解するための考え方：統合失調症①	<ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症の病態と治療 	事前：テキストの該当部分について読んでおく(30分) 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする(1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (原田)	対象を理解するための 考え方：統合失調症 ②	・統合失調症をもつ人とその家族への支援	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
8 (原田)	対象を理解するための 考え方：気分障がい①	・気分障がいの病態と治療について	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
9 (原田)	対象を理解するための 考え方：気分障がい ②	・気分障がいをもつ人とその家族への支援	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
10 (原田)	対象を理解するための 考え方：精神作用物 質関連障がい	・物質関連障がい（アルコール関連障がい、精神刺激 薬使用障がい、ゲーム障がい）の病態・治療と看護 ・セルフヘルプグループ	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
11 (原田)	対象を理解するための 考え方：行動症候群 （摂食障がい）パーソ ナリティ障がい、性別 違和	・生理的障がいおよび身体要因に関連した行動症候 群（摂食障がい）、 パーソナリティ障がいの病態・治療 ・性別違和の病態・治療と看護	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
12 (原田)	対象を理解するための 考え方：症性障がい、 ストレス関連障がい、 身体症状症	・神経症性障害の病態・治療と看護 ・ストレス関連障害の病態・治療と看護 ・身体症状症の特徴について	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
13 (原田)	対象を理解するための 考え方：心理的発達の 障がい（CNS）	・発達障がいの病態・治療と看護	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義に関する学びや気づき についてワークシートにまとめ、期限 までに提出する。講義資料の復習・ 教科書の再読をする（1時間）
14 (高橋)	地域での自立、統合へ の支援	・偏見・差別・スティグマ ・精神の健康に関する普及啓発活動 ・多職種によるアウトリーチ（訪問支援）	事前：テキストの該当部分について 読んでおく（30分） 事後：講義資料の復習・教科書の再 読をする（1時間）
15 (原田)	精神科領域における看 護過程、看護診断	精神科領域で看護過程を展開する際の考え方やアセ スメント、看護問題の特徴について学ぶ。	事前：ゴードンのアセスメントパタ ーンについて復習しておく（20分） 事後：講義資料の復習をする（30分）

授業科目	在宅看護論Ⅰ Home Care Nursing Ⅰ		担当教員	安藤 陽子、増田 陽介
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位	
授業目的	病気や障がいを抱えても住み慣れた地域や自宅等で暮らし続けたいという希望を多くの人が持っている。在宅看護は、そのような人々のニーズに応え、QOLを尊重した支援することが求められており、近年その役割は増大している。本科目では、対象となる在宅療養者や家族を理解し、在宅看護の目的と理念、看護職の役割・機能、対象を支援する関係機関や職種、社会資源に関する知識を修得する。また、在宅療養者に対する看護過程の展開方法を修得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅療養者と家族が暮らす地域社会の現状を理解する。 2.在宅看護の理念と目的、特徴を学び、看護職者の役割・機能を理解する。 3.在宅看護の対象となる療養者と家族を理解する。 4.在宅療養者と家族を支援する関係機関・職種、社会資源を理解する。 5.地域包括ケアシステム、制度・政策を理解する。 6.在宅療養者と家族に対する看護過程の展開方法を理解する。 			
関連科目	2年前期 地域保健医療看護論、2年後期 家族看護論 が関連科目である。			
テキスト	臺有佳他編「地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア」(メディカ出版)			
参考書	講義の時に必要な参考文献を紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 ・定期試験(80点):到達目標に関する定期試験(筆記試験)によって、目標の達成度を評価する。 ・課題レポート(20点):講義を踏まえ、「在宅看護の役割」、「在宅看護において必要な態度やコミュニケーション」に関する考えを記述する。	
	試験	80%		
	レポート	20%		
	小テスト			
	提出物 その他			
履修上の 留意事項	・本科目では、「疾病や障がいを抱え、在宅で暮らし続けている生活者」の視点でこれまでの履修科目と関連づけながら履修してください。			
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートについては、コメントを付して期日までに返却する。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、在宅看護について理解しやすいように授業を行います。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1 (安藤)	ガイダンス 在宅看護の目的、QOL を考えた在宅看護	・本科目の学習目的・目標および学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項、テキスト等を説明する。 ・在宅看護の目指すもの、提供されている場、QOL、生活している地域を理解する。		事前:シラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく(1時間) 事後:講義を振り返り、学びを深める(1時間)
2 (安藤)	在宅看護の対象者の 理解	・家族や住まい、住み方を視野に入れた支援 1.「生活者」の視点から在宅療養者を捉える。 2.在宅療養者の特徴(年齢・疾患・障がいなど)を理解する。 3.ICFについて理解する。		事前:テキストを読む(1時間) 事後:在宅看護の対象者の特徴について学びを深める(1時間)
3 (安藤)	在宅療養者としての 家族	1.システム理論を用いて在宅看護の対象者としての家族の捉え方を理解する。 2.在宅看護の対象者としての家族支援の視点を理解する。		事前:テキストを読み「家族とは」について考えておく(1時間) 事後:「家族支援」の特徴について学びを深める(1時間)
4 (安藤)	在宅看護に求められて いる看護師の役割と機 能	在宅看護に求められる看護師の役割と機能を以下の点から考える。 ・地域ケアシステム ・訪問看護の重要性		事前:テキストを読む(1時間) 事後:「在宅看護の役割」についてレポートを提出する(A4用紙1枚1500字程度)(2時間)
5 (安藤)	在宅療養の支援	1.在宅療養の提供の場と特徴 2.入退院・入退所など、療養の場の移行期における看護師の支援		事前:テキストを読み、在宅療養の場について理解しておく(1時間) 事後:各々の場における看護師の役割の特徴について学びを深めておく(1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (安藤)	在宅療養に関わる法令・制度とその活用	1.在宅看護に関わる法令の変遷と歴史的背景 2.在宅看護の法的根拠 3.訪問看護制度とサービス提供の具体的内容	事前:テキストを読み、各法令について学習しておく(1時間) 事後:在宅看護に関わる法令・制度について学びを深める(1時間)
7 (安藤)	在宅療養者と家族を支える社会保障制度	1.在宅療養者を支える社会保障制度 2.訪問看護サービスとケアマネジメントにおける社会資源の活用 3.他職種連携の必要性	事前:テキストを読み、訪問看護制度、ケアマネジメントについて学習しておく(1時間) 事後:訪問看護制度、ケアマネジメントについて学びを深める(1時間)
8 (安藤)	在宅看護過程の特徴	在宅看護過程の特徴を以下の視点で理解する。 ・病院で行われる看護との違い ・対象者の生活や価値観の多様性	事前:テキストを読む(1時間) 事後:在宅看護過程の特徴について学びを深める(1時間)
9 (安藤)	在宅療養上のリスクマネジメント、権利保障	在宅看護におけるリスクマネジメントの特徴を以下の視点から理解する。 ・個人の尊厳や自己決定 ・個人情報開示 ・成年後見、虐待防止 ・災害時の訪問看護の役割と心構え	事前:テキストを読む(1時間) 事後:在宅で注意すべきリスクおよび権利保障について学びを深める(1時間)
10 (増田)	在宅看護介入時期別の特徴	在宅看護介入時期の理解 ・在宅療養準備期 ・在宅療養移行期 ・在宅療養安定期 ・急性増悪期 ・終末期(看取り期) ・在宅療養終了期	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
11 (増田)	信頼関係の構築、コミュニケーションと態度、在宅看護における倫理的課題	1.信頼関係が築かれるコミュニケーション技術のポイント 2.訪問看護において必要な態度 3.在宅看護における倫理的課題	事前:テキストを読み、コミュニケーションについて復習する(1時間) 事後:「在宅看護において必要な態度やコミュニケーションについて」レポートを提出する(A4用紙1枚1500字程度)(2時間)
12 (安藤)	終末期の療養者に対する看護	在宅看護の看護展開(終末期前期、安定期、終末期・臨死期、死亡直後)と看護の特徴	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
13 (安藤)	在宅看護過程の展開方法①	1.在宅看護過程の基本構造とアセスメント 2.アセスメント項目と情報整理の方法	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
14 (増田)	在宅看護過程の展開方法②	アセスメントの構造化による課題の抽出方法や目標設定方法	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
15 (安藤)	在宅看護過程の展開方法③	計画立案(具体策の特徴)と評価方法	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)

授業科目	在宅看護論Ⅱ Home Care Nursing Ⅱ	担当教員	作並 亜紀子、安藤 陽子、武澤 千尋、 小川 克子、川口 桂嗣、増田 陽介、 室田 ちひろ、木浪 江衣子、武田 祐貴
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	在宅看護論Ⅰで学んだ内容を基に、在宅療養者の日常生活を「生活行為」として総合的な視点で捉え、在宅看護を展開する知識・態度・技術を修得する		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅療養者と家族への基本的な生活援助技術を理解する。 2.在宅で行われる医療処置技術について理解する。 3.在宅療養者と家族の特性を踏まえた在宅看護の方法・技術について理解する。 4.在宅療養者と家族の健康状態をアセスメントし、課題を説明する。 5.在宅看護の計画を評価の視点も含めて立案することができる。 6.在宅療養者とその家族と共に支援する他機関や他職種との連携について考えることができる。 		
関連科目	3年前期 在宅看護論Ⅰと密接に関連する。		
テキスト	臺有佳他編「地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア」(メディカ出版)		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1.河原加代子「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基盤 第6版」 2.河原加代子「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(2) 地域・在宅看護の実践 第6版」 		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 ・定期試験(60点):到達目標に関する定期試験(筆記試験)によって、目標の達成度を評価する。 ・課題レポート(10点):ゲストスピーカーの講義を受けた内容に基づき学びを記載する。 ・看護過程演習(30点):到達目標で決める提出物によって評価する。
	試験	60%	
	レポート	10%	
	小テスト		
	提出物 その他	30%	
履修上の 留意事項	在宅看護論Ⅰおよびこれまで学んだ看護技術を復習しておいてください。また、グループワークには積極的に参加し、自己の学びを深めるよう努力してください。		
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートについては、コメントを付して期日までに返却する。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、在宅看護について理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (増田)	ガイダンス 対象特性に応じた看護 ①要介護高齢者の看護	・本科目の学習目的・目標および学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項、テキスト、演習の進め方、課題等を説明する。 ・糖尿病、高血圧症を抱える要介護高齢者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前:シラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく(1時間) 事後:講義を振り返り、学びを深める(1時間)
2 (作並)	対象特性に応じた看護 ②認知症、精神疾患の療養者の看護	認知症、精神疾患の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
3 (増田)	対象特性に応じた看護 ③脳血管疾患、脳神経疾患の療養者の看護	脳血管疾患、パーキンソン病の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
4 (室田)	対象特性に応じた看護 ④在宅酸素療法を必要とする療養者および小児の療養者の看護	COPDの療養者および小児の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
5 (室田)	対象特性に応じた看護 ⑤神経難病の療養者の看護	ALSの療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)
6 (室田)	対象特性に応じた看護 ⑥終末期の療養者の看護	終末期(がん)の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ。	事前:テキストを読む(1時間) 事後:講義を振り返り学びを深める(1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (武田) 8 (室田)	医療管理を要する療養者の看護とリハビリテーション①②	在宅療養者を支える実践者（特別講師）から講義を受け、在宅看護技術を学ぶ。 1.在宅における皮膚・排泄ケア（褥瘡創傷ケア、人工肛門、人工膀胱、膀胱留置カテーテル）（皮膚・排泄ケア認定看護師） 2.在宅におけるリハビリテーション（訪問リハビリテーション経験者）	事前：テキストを読む（1時間） 事後：「実践者からの講義を受けての学び」についてレポートを提出する（A4用紙1枚1500字程度）（2時間）
9 - 12 (作並) (安藤) (武澤) (小川) (川口)	在宅における看護過程の展開①②③④	グループワーク（4～5名）を実施する。 1.学生個々に取り組んだアセスメントを持ち寄り、グループ内で共有し、全体像と対象理解を共有する。 2.学生個々に作成した看護計画の内容を共有し、訪問時の看護計画を立案する。 3.訪問時の看護計画から一場面を想定したロールプレイを検討する。	事前：個人で考えた看護過程をメンバーに伝えられるように準備する（1時間） 事後：演習の内容を深めておく（1時間）
13 - 14 (作並) (安藤) (武澤) (小川) (川口)	在宅における看護過程の展開⑤⑥	訪問時の看護計画を発表し、ロールプレイを実施する。 1.訪問時の看護計画を発表する。 2.訪問時の看護計画に沿ってロールプレイを実施する。 3.発表とロールプレイを振り返る。	事前：発表準備を行う（1時間） 事後：個人で演習のまとめを行う（1時間）
15 (作並) (安藤) (武澤) (小川) (川口)	在宅における看護過程の展開⑦	1.在宅における看護過程の展開から学んだことをグループで振り返る。 2.在宅看護論Ⅱのまとめ	事前：他グループの発表をふまえ、自己の学びをまとめる（1時間） 事後：グループワークや発表での学びを活かし、事例に関するアセスメント・関連図・看護計画を追加・修正して提出する（2時間）

授業科目	医療安全論 Patient Safety & Disaster Nursing	担当教員	吉田 祐子、福岡 啓子、葛西 陽子
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	医療・看護における「安全」の基本的な考え方を理解し、リスクに対する感受性と判断力を磨き、看護の質と医療安全の関連について考える。特に、看護専門職としての責務、医療安全の基本的な考え方、医療安全と看護の質、患者の安全対策、感染防止、事故防止等について理解を深める。また、災害に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期における看護について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全を学ぶことの意義を理解する。 2. 医療安全の重要性と医療安全のためのシステムについて理解する。 3. 医療事故に伴う看護職の法的問題について理解する。 4. 医療事故のメカニズムを理解する。 5. 起こりやすい医療事故とその対策について考察することができる。 6. 医療安全管理と医療の質、看護の質との関連について理解する。 7. 感染によるリスクと感染防止対策について理解する。 8. 災害に関する基本的知識を学習し、災害時における看護の役割と機能について理解する。 		
関連科目	看護管理論、看護技術総論の感染予防		
テキスト	山内豊明他編集「医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして」(南江堂)		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 松下由美子他編集「ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全」(メディカ出版) 2. 川村治子「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践2 医療安全」(医学書院) 3. 川村治子「医療安全ワークブック (第4版)」(医学書院) 4. 小林美亜編集「医療安全 患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力 (改訂第2版)」(学研メディカル秀潤社) 5. 河野龍太郎「医療におけるヒューマンエラーなぜ間違える どう防ぐ」(医学書院) 6. 坂本史衣「基礎から学ぶ医療関連感染対策標準予防からサーベイランスまで 改訂第3版」(南江堂) 7. 満田年宏「ナースのための院内感染対策 CDC ガイドラインを中心に考える基本と実践一」(照林社) 8. 酒井明子 菊池志津子編集「災害看護」(南江堂) 9. 黒田裕子 酒井明子監修「新版災害看護一人間の生命と生活を守る」(メディカ出版) 10. 小原真理子監修「いのちとこころを救う災害看護」(学習研究社) 		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 講義の理解度を評価するための小テストを実施する。小テストの実施方法等は初回講義で説明を行う。目標到達状況を吉田 50% 福岡 25% 葛西 25%の割合で構成した試験により評価する。 試験 80%、小テスト 20%で総合評価を行う。
	試験	80	
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	授業内容の範囲が広いので、テキスト・参考文献で事前・事後学習をしっかりとっておきましょう。		
課題に対するフィードバックの方法	講義の理解度を確認するための問いを設定した小テストのフィードバックを、全体に対して講義の中で行います。		
実務経験を活かした教育内容	本科目担当教員が従事した臨床看護に関する実務経験に基づき、現場での事例、医療安全・感染対策、災害看護の取り組みなどを講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (吉田)	ガイダンス、医療安全を学ぶ意義と医療安全の動向	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 医療安全にかかわる基本概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全を学ぶ意義 2) 医療安全に関わる動向 3) 医療安全に関する用語の定義 3. 医療安全のためのシステムと国や団体の取り組み 4. 医療安全管理と医療(看護)の質の評価 	事前学習：テキストの該当部分について熟読する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し要点を整理する(1時間程度)。
2 (吉田)	医療事故における法的責任	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故に伴う看護職の法的責任 2. 看護倫理と医療安全 	事前学習：テキストの該当部分について熟読する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し要点を整理する(1時間程度)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
3 (吉田)	医療事故のメカニズム と事故防止	1. 医療事故発生のメカニズム 1) ヒューマンエラー 2) 人間特性 3) 環境 2. 事故分析と事故対策	事前学習：テキストの該当部分について熟読する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し要点を整理する(1時間程度)。
4 (吉田)	病院組織における医療 安全対策	1. 病院組織における医療安全対策の実際 1) 誤薬 2) 医療機器・医療用具のトラブル 2. チーム医療からみる医療事故とその対策	事前学習：テキストの該当部分について熟読する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し要点を整理する(1時間程度)。
5 (吉田)	起こりやすい医療事故 の特徴とその対策①	1. 転倒・転落 2. 患者誤認	事前学習：テキストの該当部分について熟読し、起こりやすい事故とその原因について学習する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し整理する(1時間程度)。
6 (吉田)	起こりやすい医療事故 の特徴とその対策②	1. 食事・栄養 2. チューブ・カテーテル類のトラブル	事前学習：テキストの該当部分について熟読し、起こりやすい事故とその原因について学習する(1時間程度)。 事後学習：学習主題を復習し整理する(1時間程度)。
7 (福岡)	感染の基礎知識	1. 感染に関する基礎的知識 1) 感染とは 2) 医療関連感染について 3) 医療関連感染コントロールが難しくなった背景	事前学習：感染免疫学で学んだことを復習してくる(1時間程度)。 事後学習：事前学習に講義内容を追加・修正してまとめる(1時間程度)。
8 (福岡)	感染予防①	1. スタンダードプリコーションと感染経路別予防策 2. 接触感染予防策 3. 飛沫感染予防策 4. 職業感染防止	事前学習：感染防止策としてのスタンダードプリコーションについてノートに整理する(1時間程度)。 事後学習：事前学習に講義内容を追加・修正してまとめる(1時間程度)。
9 (福岡)	感染予防② 感染予防策	1. 処置・ケア時の感染防止 2. 血流感染防止 3. 尿路感染防止 4. 院内感染肺炎防止 5. 手術部位感染防止	事前学習：感染の種類とその要因及びそれぞれの感染防止策について事前に整理する(1時間程度)。 事後学習：事前学習の内容について授業内容を追加・修正し、理解を深める(1時間程度)。
10 (福岡)	感染に関する法的事 項、認定看護師(感染 管理)の役割	1. 感染症法について 1) 歴史的変遷 2) 基本理念、基本方針等 3) 法律の内容 2. 認定看護師(感染管理)の役割と機能 3. 認定看護師が行う感染管理の実際	事前学習：感染症法について参考書を参考にしてまとめる(1時間程度)。 事後学習：医療における感染によるリスクとその感染予防策と感染管理における看護師の役割について指定用紙にレポートする(1時間程度)。
11 (葛西)	災害看護の歴史的背 景、災害と災害医療・ 災害看護に関する基礎 知識	1. 災害看護の歴史的背景 2. 災害・災害看護の定義 3. 災害の種類による疾病構造の特徴 4. 災害サイクル各期における特徴	事前学習：シラバスを読み、災害看護に対する疑問を明らかにする(1時間程度)。 事後学習：授業を想起し、災害の構造について理解を深める(1時間程度)。
12 (葛西)	災害時の看護活動の実 際と実践に必要な知識	1. 国内外における災害関係機関(行政及び諸機関)の役割・支援体制 2. 災害時要援護者への看護 3. 災害が及ぼす被災者・援助者への心理的影響とケア 4. 災害時に必要な技術・トリアージ法	事前学習：災害サイクル各期の看護活動の特徴と看護の役割について、自身の思考を整理し、疑問を明らかにする(1時間程度)。 事後学習：疑問が明らかになってきたか、授業で学んだことを整理する(1時間程度)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
13 (葛西)	災害への備え	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時への備え 2. 初動体制 3. 災害訓練 4. 避難所運営 	<p>事前学習：災害発生を想定し、事前に考えられる準備を列挙する(1時間程度)。</p> <p>事後学習：講義・演習内容から、災害の影響を少なくするための準備について学んだことを整理する(1時間程度)。</p>
14 (葛西)	災害看護の重要性と看護師が果たす役割	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時の看護活動の実際と実践に必要な知識 2. 災害時における看護師の役割 3. 災害への備え 	<p>事後学習：災害看護の重要性と災害時に看護職が果たす役割について学んだことを整理する(1時間程度)。</p>
15 (吉田)	まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート課題へのフィードバック 2. 看護学生として遭遇しやすい事例の検討 3. 全体を通じた振り返り 	<p>事前学習：これまでの学習内容について振り返っておく(1時間程度)。</p> <p>事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する(1時間程度)。</p>

授業科目	看護学研究法 Research Methods in Nursing	担当教員	吉田 祐子、木津 由美子、末光 厚夫
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	看護学の研究の意義・目的、研究方法、研究論文の書き方、発表等に関する基礎知識を習得し、看護課題研究で活用できることを目的とする。研究を進めるために必要な文献検索の方法や活用方法、研究論文の読み方、研究デザイン、データ収集方法と分析方法について学ぶ。また看護研究における倫理について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の研究の意義と必要性を理解できる。 2. キーワードを用いて文献検索ができる。 3. 研究課題にマッチした研究デザインと研究の種類について理解できる。 4. 看護研究を進めるにあたって研究者に求められる倫理について理解できる。 5. 量的研究・質的研究の種類と進め方を理解できる。 6. 看護研究論文をクリティークし、他の学生と討議ができる。 7. 論文作成までの過程を述べるができる。 		
関連科目	既習の「表現技法」「統計分析法」と臨地実習を含めた看護全般の科目と関連します。また4年次の「看護課題研究」密接に関連します。		
テキスト	南裕子「看護における研究 第2版」(日本看護協会出版社)		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 谷津裕子「Start Up 質的看護研究」(学研メディカル秀潤社) 2. 横川博英(監) 藤林和俊「看護研究をはじめのための統計と臨床疫学—研究デザインから検定方法の理解に役立つ」(学研メディカル秀潤社) 3. 李 節子「看護研究こころえ帳 -- 研究の基本からプレゼンテーションまで」(医歯薬出版) <p>* 授業時にも参考文献を提示します。</p>		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		目標の到達状況を下記の点から評価し、60点以上を合格とする。
	レポート	50	①最終レポート(50点) ・最終レポートが定期試験に該当しますので、提出しなかった場合は評価の対象になりません。
	小テスト		・最終レポート(50点)として、学修の到達度を評価する。
	提出物	50	②提出物 (50点) ・課題(文献検索リスト・文献クリティークの成果)などを課し、提出物(50点)として学修の到達度を評価する。
その他			
履修上の留意事項	4年次の「看護課題研究」につながる科目です。基本をしっかりと学んでください。実際に文献を読んだり、文献検索をする方法を演習しますので、その後は自ら図書館で文献検索をしたり、文献を読み、文献収集をする力と文献を読む力をつけていきましょう。提出物の評価点が高いので、期限を守って提出してください。		
課題に対するフィードバックの方法	授業内で全体へフィードバックします。		
実務経験を活かした教育内容			
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (吉田)	研究とは何か	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (本科目の目的、目標、内容、評価) 2. 研究とは 3. 看護研究の意義と目的 	事前: シラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく(1時間) 事後: テキストと配付資料を用いて看護研究の意義・目的をノートにまとめる(2時間)。
2 (吉田)	研究過程の概観 研究デザインと研究方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究のプロセス 2. 研究デザインと研究方法 	事前: テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後: テキストと配付資料を読み、授業内容をノートに整理する(2時間)。
3 (吉田)	研究における倫理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究における倫理原則 2. 看護研究における倫理の必要性 3. 研究倫理に関わる指針 	事前: テキストの該当ページを読み、不明な用語は調べておく(1時間)。 事後: テキストと配付資料を用いて看護研究倫理的に進めるために必要な視点をノートに整理する(2時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (吉田)	文献検索と文献検討①	1. 文献検討の意義・目的	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
5 (吉田・木津他)	文献検索と文献検討②	1. 文献検索の方法 2. 文献を入手する方法 * 図書館の司書の方の支援を受ける	事前：テキストの該当ページを読み、興味関心のある言葉を考えておく(1時間)。 事後：授業で体験した文献検索を実際に行い、リストを作成し、文献を1つ取り寄せる(2時間)。
6 (末光)	研究と統計	1. 研究に用いられる統計の基本	事前：1年次の統計に関する授業を復習する(1時間)。 事後：配付資料を読み直し、授業内容をノートに整理する(2時間)。
7 (吉田)	量的研究法①	1. 量的研究とは何か 2. 量的研究の特徴と種類	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
8 (吉田)	量的研究法②	1. 量的研究のデータ収集方法	事前：事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
9 (吉田)	量的研究法③	1. 量的研究論文のクリティーク	事前：配付された量的研究論文を読みクリティークする(2時間)。 事後：授業で行ったクリティークを見直しノートに整理する。
10 (吉田) (木津)	演習：看護課題研究発表会聴講	1. 4年次の看護課題研究発表会の聴講	事前：発表会参加のオリエンテーションを受け、聴講の方法を確認する(1時間)。 事後：発表会の学びをノートにまとめる(2時間)。
11 (吉田)	質的研究法①	1. 質的研究とは何か 2. 質的研究の特徴と種類	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
12 (吉田)	質的研究法②	1. 質的研究におけるデータ収集と分析方法	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。
13 (吉田)	質的研究法③	1. 質的研究論文のクリティーク	事前：配付された量的研究論文を読みクリティークする(2時間)。 事後：授業で行ったクリティークを見直しノートに整理する。
14 (吉田)	研究成果の発表 看護課題研究テーマ	1. 研究成果の発表方法 2. 研究論文の構成と論文作成時の留意事項 3. 看護課題研究にむけての研究テーマ調査	事前：看護課題研究で取り組みたいテーマを考える(1時間)。 事後：自分の研究テーマを明らかにし、テーマ希望調査表を作成する(2時間)。
15 (吉田)	研究計画書作成	1. 研究計画書作成の意義と構成 2. 研究計画書の作成過程の実際	事前：テキストの該当ページを読む(1時間)。 事後：テキストと配付資料を用いて授業内容をノートにまとめる(2時間)。

授業科目	看護管理論 Nursing Management	担当教員	吉田 祐子、浪岡 まさみ
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	看護におけるマネジメントの概念、看護サービスのマネジメントの概念について学び、看護組織を運営していくために必要な考え方を理解する。また、質の高い看護サービスを提供するための看護管理のあり方、多様な看護実践の場における看護マネジメントの実際を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の概念、看護を取り巻く諸制度について理解する。 2. 看護サービスのマネジメントの概念について理解する。 3. マネジメントに必要な知識と技術について理解する。 4. 多様な看護実践の場における看護マネジメントのあり方について理解する。 		
関連科目	医療安全論		
テキスト	上泉和子「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理（第10版）」(医学書院)		
参考書	手島恵・藤本幸三編集「看護管理学 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル（改訂第2版）」(南江堂)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 試験（70%）とレポート（30%）の総合で60%を満たすものを合格とする。 試験は、到達目標の達成を評価する。 レポートは、看護管理を考える上で基本となる概念についての理解度を評価する。
	試験	70	
	レポート	30	
	小テスト		
	提出物 その他		
履修上の留意事項	看護管理は、既習の授業すべてに関連があります。これまでの学修を振り返り授業に臨んでください。		
課題に対するフィードバックの方法	レポートについてのフィードバックを第8回目の講義で全体に行う。		
実務経験を活かした教育内容	本科目担当教員が従事した看護管理に関する実務経験に基づき、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (吉田)	ガイダンス、看護管理の概念	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 看護におけるマネジメントの概念と変遷 <ol style="list-style-type: none"> 1) マネジメントとは 2) マネジメントプロセス 3) マネジメントの変遷 	事前学習：シラバスを読み、これまでに学んだことからこの授業内容についての疑問点を明らかにしておく。テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：授業内容を整理する。
2 (吉田)	看護組織論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織構造・理念と組織図 2. 看護組織 	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。
3 (吉田)	看護サービスのマネジメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. サービスとは 2. サービスの質 3. サービス提供体制 	事前学習：看護サービスのマネジメントについて、テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。
4 (吉田)	看護を取り巻く諸制度、政策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職と法制度 2. 看護職の教育制度 3. 医療制度 	事前学習：看護職に関連する法律および医療制度について、これまで学んだ授業科目の内容、テキストの該当部分から整理する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。
5 (浪岡)	人的資源活用論①	<ol style="list-style-type: none"> 1. モチベーション 2. ストレスマネジメント 3. 労務管理・ワークライフバランス 	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (浪岡)	人的資源活用論②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続教育 2. 目標管理 3. キャリア開発 	<p>事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。</p> <p>事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する。</p>
7 (浪岡)	リーダーシップ論	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーシップとメンバーシップ 2. 看護管理者の役割 	<p>事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。</p> <p>事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する。</p>
8 (吉田)	まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート課題へのフィードバック 2. 全体を通じた振り返り 	<p>事前学習：これまでの学習内容について振り返っておく。</p> <p>事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する。</p>

授業科目	公衆衛生看護学概論 Introduction to Public Health Nursing	担当教員	近藤 明代
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	公衆衛生看護の概要と社会的機能、活動目的・理念、対象や展開方法の特性を理解する。		
到達目標	1.公衆衛生看護の発生と発展過程を学び、公衆衛生看護の社会的機能を理解する。 2.公衆衛生看護の定義、目的、役割、理念について理解する。 3.公衆衛生看護の対象特性を理解する。 4.公衆衛生看護の展開方法の特性を理解する。		
関連科目	3年次後期から開始する公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎になる。		
テキスト	標美奈子著者代表「標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論」(医学書院) 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる」(メディックメディア) その他授業に必要な資料は、その都度配布する。		
参考書	大国美智子「保健婦の歴史」(医学書院) リリアン・ウォルド「ヘンリー・ストリートの家」(日本看護協会出版会) 木下安子「近代日本看護史」(メヂカルフレンド社) その他授業に必要な文献は、その都度紹介する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 公衆衛生看護の概要と社会的機能、活動目的、理念、対象や展開方法の特性に関する筆記試験を実施し、目標の到達度を評価する。筆記試験は授業終了後の定期試験期間前に行う。
	試験	100	
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	・毎回ラバスの「学習の主題」「授業内容」を念頭に置きながら授業内容を理解する。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問の解決は先延ばしにせず、その場あるいは授業終了後に担当教員に質問してください。		
課題に対するフィードバックの方法	最終授業においてポイントを押さえながら全体をフィードバックする。		
実務経験を 活かした教育内容	保健師として公衆衛生看護活動を実施してきた実務経験者の立場から、実際の活動事例も紹介しながら本科目の目標である公衆衛生看護学の基本となる考え方を伝えます。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	公衆衛生看護の概念/定義、社会的機能/、活動の場	本科目の目的・目標、授業内容と評価方法、履修上の留意点。 公衆衛生看護の概念/定義、社会的機能/役割、活動の場。	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
2	公衆衛生看護活動の理念と理論	公衆衛生看護の理念 公衆衛生・公衆衛生看護の発展過程と諸理論	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
3	公衆衛生看護の対象の特性	公衆衛生看護の対象の特性	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
4	公衆衛生看護の歴史	公衆衛生看護の発生と発展過程	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
5	公衆衛生看護展開方法の特性①	公衆衛生看護展開方法の全体像 地域社会を対象とする看護過程	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
6	公衆衛生看護展開方法の特性②	個人・家族・グループ・地域組織の健康課題への介入方法	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
7	公衆衛生看護展開方法の特性③	地区担当・業務担当 「地域における保健師の保健活動に関する指針」 (平成25年4月19日付 健発0419第1号)について	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。
8	公衆衛生看護展開方法の特性④	関係機関、関係職種、地域資源との連携と地域システム構築	事後:教科書、授業で使用したプリントをもとに、学修内容を復習する(2時間)。

授業科目	公衆衛生看護活動論 I Public Health Nursing I	担当教員	武澤 千尋、川口 桂嗣、近藤 明代
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	地域で生活する個人・家族の健康の維持増進・疾病の予防と回復に向けた支援方法（健康相談、家庭訪問、健康診査、健康教育、グループ支援）を理解し、各方法を展開するための基礎的能力を習得する。		
到達目標	1.公衆衛生看護で用いられる支援方法の全体構造を理解する。 2.個人・家族の健康問題の解決・課題達成のために用いられる支援方法（健康相談、家庭訪問、健康診査、健康教育、グループ支援）の特徴、内容を理解する。 3.健康相談、家庭訪問、健康教育、グループ支援を展開する基礎的能力を習得する。		
関連科目	2年後期 家族看護論・健康教育論、3年前期 公衆衛生看護学概論、4年後期 公衆衛生看護実習Ⅰ・Ⅱが関連科目である。		
テキスト	中村裕美子編「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」(医学書院) 村嶋幸代、岸恵美子編「保健学講座 公衆衛生看護支援技術」(メヂカルフレンド社)		
参考書	宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著「最新保健学講座別巻1 健康教育論」(メヂカルフレンド社) ※その他は講義の際に必要な参考文献を紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	70	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 (70点) : 到達目標に関する定期試験 (筆記試験) によって、目標の達成度を評価する。武澤:35点 川口:35点 ・家庭訪問演習 (15点) : 保健師が実施する家庭訪問による支援方法について、①家族アセスメント、②家庭訪問計画立案、③家族の主体性を促す関わり観点で評価する。 ・健康教育演習 (15点) : 保健師が実施する小集団を対象とした健康教育の特徴を踏まえた支援について、①地域特性を踏まえた集団のアセスメント、②健康教育事業の立案、③住民自らが健康を管理するための集団への支援方法の観点で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	30	
その他			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ内容は、教科書や参考文献を活用して自ら学びを深めましょう。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度解決できるよう主体的な学習行動を心がけましょう。 		
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物はコメントを付して返却する。 		
実務経験を活かした教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での保健師活動の実務経験に基づき、公衆衛生看護場面で用いる支援方法について授業を行います。 ・地域での事例などを基にした演習を実施し、支援方法の実際をイメージ出来るように授業を展開します。 		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (武澤)	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護における支援方法の全体構造と特徴 ・公衆衛生看護における健康相談 	1.個人・家族・小集団を対象とした健康問題の解決・課題達成のための支援方法の意義 2.公衆衛生看護における健康相談の概念、目的、対象 3.公衆衛生看護における健康相談の位置づけ、展開方法、特徴、留意点	事前：公衆衛生看護学概論で学んだ公衆衛生看護展開方法の特性について復習する (1時間) 事後：テキストや参考文献を活用し、学習した内容を深める (1時間)
2 (武澤)	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護における健康診査・検診 	公衆衛生看護における健康診査・検診の目的、種類、対象、方法、留意点	事前：テキストや参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく (1時間) 事後：テキストや参考文献を活用し、学習した内容を深める (1時間)
3-4 (武澤)	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護における家庭訪問①② 	公衆衛生看護における家庭訪問の目的、対象、機能、特徴、展開方法、留意点	事前：家族看護論で学習した内容を復習して準備を行う (1時間) 事後：テキストや参考文献を活用し、学習した内容を深める (2時間)
5-6 (武澤) (川口)	公衆衛生看護における家庭訪問の展開①②	1.提示された事例を家族アセスメントの視点で分析し、健康課題を明確化する。 2.対象への支援目標を立てる。 3.家族を一単位とした支援計画を立案し、評価方法を検討する。 4.家庭訪問の演習 (ロールプレイ) の準備を行う	事前：課題に対し個人およびグループでの取り組みを行う (1時間) 事後：授業中に作成した課題について確認し、修正を行う (2時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 - 8 (武澤 川口 近藤)	公衆衛生看護における 家庭訪問の展開③④	1.保健師役として、実際の家庭訪問場面を展開する。 2.実施した家庭訪問場面を評価し、次回計画を検討する。 3.ロールプレイの体験から家庭訪問の留意点を学ぶ。	事前：発表練習を行う（1時間） 事後：対象者の反応から自身が実施した支援を評価し提出する（2時間）
9 - 10 (川口)	公衆衛生看護における 健康教育①②	1.公衆衛生看護における健康教育の目的、対象、展開方法、特徴、留意点 2.健康教育の企画・実施・評価	事前：健康教育論で学習した内容を復習して準備を行う（1時間） 事後：テキストや参考文献を活用し、学習した内容を深める（1時間）
11 - 13 (川口) (武澤)	公衆衛生看護における 健康教育の展開①②③	1.提示された小集団をアセスメントし、健康課題を明確化する。 2.小集団への支援目標を立てる。 3.小集団への支援計画を立案し、評価方法を検討する。 4.健康教育で使用する教育媒体を作成する。 5.健康教育の展開（ロールプレイ）の準備を行う。	事前：課題に対しグループで取り組みを行う（2時間） 事後：授業中に作成した課題について確認し、修正を行う（2時間）
14 - 15 (川口) (武澤) (近藤)	公衆衛生看護における 健康教育の展開④⑤	1.対象集団のメンバー役と保健師役、ロールプレイ観察者役を設定し交互に演じる。 2. ロールプレイの体験から小集団（グループ）支援の留意点を学ぶ。	事前：発表練習を行う（1時間） 事後：小集団への健康教育の特徴と留意点をレポートにして提出する（2時間）

授業科目	公衆衛生看護活動論Ⅱ Public Health Nursing II	担当教員	小川 克子、武澤 千尋、川口 桂嗣、 近藤 明代、作並 亜紀子、渡辺 千鶴
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	2単位
授業目的	コミュニティ（地域共同社会）の健康課題の明確化、健康と福祉水準の向上を図る保健計画の立案、介入方法の選択・評価を展開する基礎的能力を身につけるために、地域住民を対象とする公衆衛生看護過程の理論・方法を用いて地域のコミュニティアセスメントを演習する。また、住民自身の、住民自身による、住民自身のための保健施策実現のために、住民と共働して実施する地域活動のあり方を学習し、人々が所属する集団や地域組織の健康課題の解決、健康レベルの向上を構成員自身が主体的に実現する過程とその支援方法を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康を規定する環境としての地域社会を理解し、公衆衛生看護における地域社会の概念規定を説明できる。 2. コミュニティを看護の対象として認識し、コミュニティの健康課題を抽出、地域保健計画や公衆衛生看護計画の立案、実施、評価、即ちコミュニティを対象とする看護過程を展開できる。 3. ヘルスプロモーションの理念に基づき、コミュニティで生活する人々が自らの健康を維持・増進・回復するための主体的・自主的な言動を支援する理論、展開方法を理解し、支援のための基礎的知識を説明できる。 4. 地域組織、地域ケアシステム構築のための支援方法を説明できる。 5. 対象別健康課題別公衆衛生看護活動の展開方法を説明できる。 		
関連科目	履修した全ての科目に関連があります。また、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅲの関連科目です。		
テキスト	松田正己他「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」（医学書院） 佐伯和子編著「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド（第2版）」（医歯薬出版） 厚生労働統計協会「国民衛生の動向2023/2024」（厚生労働統計協会） 医療情報科学研究所編「公衆衛生がみえる2022-2023」（メディックメディア）		
参考書	授業ガイダンス又は授業時間に随時紹介します。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点
	試験	90	・定期試験（90点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価します（小川13点分、武澤20点分、川口25点分、近藤16点分、作並16点分）。 ・コミュニティ看護アセスメント演習において、レポートを①地域で生活する人々の健康と生活実態に必要なデータを特定、収集できる②収集したデータを整理し、分析を行うことができる③地域の概要、地域の基本構造（コア）から地域に住んでいる人々の特性を把握するの観点で評価します（10点）
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	・本科目では健康課題を、対象別、課題別に捉えます。学習内容が多いため、毎回の授業内容を整理し、復習を行い、確実に理解してください。 ・グループやコミュニティを対象とする支援方法を学びます。公衆衛生看護活動論Ⅰでの学習する支援方法と関連づけて学習してください。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度担当教員に質問してください。		
課題に対するフィードバックの方法	・授業ごとに理解度を確認し、授業最後に全体にフィードバックを行います。 ・演習は発表を行い、フィードバックを行います。また、レポートは添削を行い返却します。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動の体験を講義に織り交ぜながら、公衆衛生看護活動の実践に必要な知識を理解しやすいように授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (近藤)	・公衆衛生看護学体系における本科目の位置づけ ・地域で生活する人々や居住している地域社会の特性に即した公衆衛生看護活動展開方法の概要	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意点、学習評価方法について説明する。 1. コミュニティを対象とする公衆衛生看護過程の理論と方法 2. 集団の健康管理・健康レベル向上を目指した公衆衛生看護介入方法の諸相 3. 対象別健康課題別公衆衛生看護活動	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1時間）
2 (近藤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（1） 母子保健活動①	わが国の近現代における母子保健福祉の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1時間）
3 (近藤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（2） 母子保健活動②	児の成長発達段階別健康課題に即した母子保健活動	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1時間）。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (近藤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(3) 母子保健活動③	ハイリスク児への母子保健活動	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)
5 (武澤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(4) 産業保健活動①	産業保健の歴史と現代の産業保健活動体系	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
6 (武澤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(5) 産業保健活動②	働く人々の健康問題の諸相	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
7 (武澤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(6) 産業保健活動③	産業保健看護職の役割と業務	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
8 (川口)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(7) 成人保健活動①	わが国の近現代における成人保健の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)
9 (川口)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(8) 成人保健活動②	成人期の健康課題別保健活動	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)
10 (川口)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(9) 高齢者保健活動①	わが国の近現代における高齢者保健の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
11 (川口)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(10) 高齢者保健活動②	高齢者の健康課題別保健活動	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
12 (武澤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(11) 精神保健活動①	わが国の近現代における精神保健の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
13 (武澤)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(12) 精神保健活動②	わが国の近現代における精神保健の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
14 (渡辺)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(13) 学校保健活動①	学校保健の歴史と学校保健活動体系	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
15 (渡辺)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(14) 学校保健活動②	学校における健康課題と養護教諭の役割と業務	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
16 (作並)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(15) 感染症保健活動①	わが国の近現代における感染症保健の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
17 (作並)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(16) 感染症保健活動	地域における感染症保健活動の展開	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
18 (作並)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(17) 難病保健活動①	わが国の近現代における難病保健の動向と公衆衛生看護の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
19 (作並)	対象別健康課題別公衆衛生看護活動(18) 難病保健活動②	地域における難病保健活動の展開	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。
20 (川口)	集団の健康管理・健康レベル向上を目指した公衆衛生看護介入方法(1)	グループの育成と地域活動への発展における保健師の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する(1時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
21 (小川)	集団の健康管理・健康レベル向上を目指した公衆衛生看護介入方法 (2)	住民組織・地区組織の育成と保健師の役割	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
22 (小川)	コミュニティを対象とする公衆衛生看護過程	1. 公衆衛生看護過程とは 2. 地域アセスメント (地域診断) の目的 3. 情報収集の方法と分析 4. 公衆衛生看護過程の理論・モデル・ツール	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
23 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (1) (地域の概要アセスメント①)	1. コミュニティ看護アセスメント演習ガイダンス 2. データ収集・地区踏査データの加工・判断 3. データ加工・判断	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
24 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (2) (地域の概要アセスメント②)	アセスメント項目を定めて地域の概要をアセスメントする	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
25 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (3) (地域の概要アセスメント③)	グループメンバーのアセスメントを統合し、地域の概要アセスメントレポートを完成させる	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
26 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (4) (地域の人々の特性アセスメント①)	アセスメント項目を定めて地域の人々の特性をアセスメントする	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
27 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (5) (地域の人々の特性アセスメント②)	地域の人々の特性をアセスメントする	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
28 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (6) (地域の人々の特性アセスメント③)	グループメンバーのアセスメントを統合し、アセスメントレポートを作成する	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
29 (小川) (武澤) (川口)	コミュニティ看護アセスメント演習 (7) (発表とグループディスカッションの準備)	発表とディスカッションの準備を行う。演習を通しての学び、疑問点を整理する	事前：授業内容についてテキストから予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。
30 (小川) (武澤) (川口) (近藤)	コミュニティ看護アセスメント演習 (8) (発表とディスカッション)	発表とグループディスカッションを行う	事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する (1 時間)。

授業科目	公衆衛生看護管理論 Management of Public Health Nursing	担当教員	近藤 明代、安藤 陽子
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	公衆衛生看護の目的は、人々が自らの健康や QOL を維持・改善する能力の向上および人々を取り巻く環境の改善を支援することにより、集団の健康の保持増進・健康障害の予防と回復を促進し、人々の生命の延伸、社会の安寧に寄与することである。公衆衛生看護活動を効果的、能率的に達成するための公衆衛生看護管理の方法について学ぶ。また、健康危機管理（災害、感染症等）のあり方についても学習する。		
到達目標	1.公衆衛生看護管理の意義について理解する。 2.公衆衛生看護管理の方法について理解する。 3.地域における健康危機管理について理解する。		
関連科目	3年前期 公衆衛生看護学概論、4年後期 公衆衛生看護実習Ⅰ・Ⅱが関連科目である。		
テキスト	標美奈子著者代表「標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論」（医学書院） 村嶋幸代、岸恵美子編「保健学講座 公衆衛生看護支援技術」（メヂカルフレンド社）		
参考書	授業中に適宜、紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 到達目標に関する定期試験によって、目標の到達度を評価する。 安藤：50点 近藤：50点
	試験	100	
	レポート		
	小テスト		
	提出物 その他		
履修上の留意事項	・毎回のシラバスの「学習の主題」「授業内容」を念頭に置きながら事前にテキスト等を確認しましょう。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度解決できるよう主体的な学習行動を心がけましょう。		
課題に対するフィードバックの方法	・最終授業において、科目全体の学習内容をフィードバックする。		
実務経験を活かした教育内容	・本科目担当教員が従事した保健師活動を基に、初任期から管理期における公衆衛生看護管理について授業を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (近藤)	公衆衛生看護管理の概念	1. 本科目の目的、目標、学習内容、履修上の留意点、評価 2. 公衆衛生看護管理の目的と機能	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
2 (近藤)	公衆衛生看護管理の諸相 1 - 地域ケアの質の保証	1. 地域の社会資源の把握 2. 地域の特性を生かした社会資源開発と施策化 3. 保健医療福祉計画の策定	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
3 (近藤)	公衆衛生看護管理の諸相 2 - 組織運営・管理、業務管理	1. 組織の目的、各部署の役割 2. 他部門との連携、情報の共有、協働	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
4 (近藤)	公衆衛生看護管理の諸相 3 - 人材育成	1. 保健師教育制度の変遷 2. 現任教育の目的と方法 3. 人材育成計画	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
5 (安藤)	公衆衛生看護管理の諸相 4 - 予算管理、人事管理	1. 予算の確保、予算の執行 2. 計画的な人事配置（管理）	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
6 (安藤)	公衆衛生看護管理の諸相 5 - 健康危機管理	1. 健康危機管理とリスクマネジメント 2. 保健活動のリスクマネジメント	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
7 (安藤)	公衆衛生看護管理の諸相 6 - 災害保健活動	感染症および自然災害時の危機管理体制と公衆衛生看護業務	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)
8 (安藤)	公衆衛生看護管理の諸相 7 - 情報管理	1. 健康関連情報の収集 2. 情報管理の方法 3. 情報公開 4. 個人情報保護	事前：テキストを読む(1時間) 事後：講義を振り返り学びを深める(1時間)